

策定年月	令和 7年 2月
見直し年月	令和 年 月

大豆国産化プラン

産地名：都城市

（作成主体：都城市農業再生協議会）

1. 大豆の生産状況と課題

- ・ 都城市の農業は、盆地特有の内陸性で温暖な気候に恵まれ、農家数6,581戸、耕地面積12,400haと宮崎県全体の2割に相当する規模で、食糧供給基地として南九州の中核をなしており、令和元年度から4年連続して市町村別の農業産出額では全国1位となり、地域経済を支える基幹産業として重要な役割を担っています。
- ・ 耕地の約半分の6,000haが水田であり、普通期水稻・飼料作物を主軸としての耕作が行われる中、ブロックローテーションによる大豆の生産に取り組んでいます。
- ・ 大豆の生産は、市内の沖水地区での生産が全体の9割以上を占め、主に3つの農業生産法人により取り組まれています。
- ・ 主な品種としては、「フクユタカ」「キヨミドリ」が全体の約8割を占めていますが、平成22年から都城在来種である「みやだいず」の生産拡大に宮崎大学、都城市、味噌醤油メーカー、農業生産法人による産学官プロジェクトを行ってきました。
- ・ 「みやだいず」は、一般品種と比較して大豆本来の香りや甘みが強く、コクがあり、味わいのある商品に加工され、全量が味噌醤油メーカーとの契約栽培とされています。

2. 課題解決に向けた取組方針

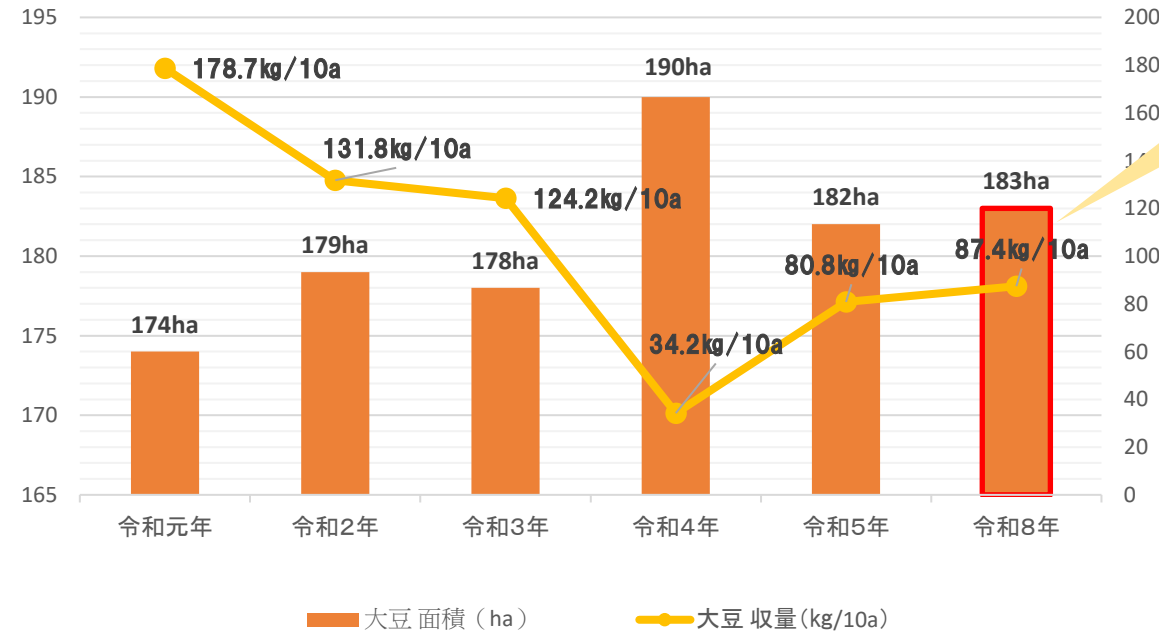
【課題に向けた取組方針】

- ・ 大豆の生産は、担い手不足を解消するために設立された農業生産法人によりそのほとんどが行われています。
- ・ ところが近年、その法人においても労働力不足が運営に大きな影響を与えており、スマート機械(高性能機械)の導入による作業効率化が喫緊の課題となっていることから、補助事業の活用により機械導入を支援します。
- ・ また、近年、播種期から生育期にかけて、台風やゲリラ豪雨等の大雨による影響により生育不良が多々見られ、熟練のオペレーターであれば蒔き直しなどにより対応できるところを、人材不足が収量に大きく影響しているため、普及センターによる栽培技術講習会の開催により、人材育成による収量の増加及び、品質の向上を図ります。
- ・ 加えて、都城在来種である「みやだいず」の契約栽培の面積拡大により、安定生産を図ります。

※ 麦・大豆生産における課題(湿害対策、適期播種、土づくり、連作障害等の必要性等)を具体的に記載すること。

※ 課題解決に向けて取組内容及び今後の生産拡大に向けた方針を具体的に記載すること。

大豆の作付面積と収量の推移



目標となる面積と収量

- 作付面積の確保
労働力不足や、オペレーター不足を補うために、スマート機械(高性能機械)の導入による農作業の効率化により、面積拡大を図る。
- 収量の確保
適期播種、適期収穫のための新規機械の導入や、大雨、高温に対応するための栽培技術を習得するために技術講習会を開催し、全体的な収量の増加、および技術習得による品質向上を図る。

※「みやだいず」の面積割合の増加
実需者と協議し、在来種である「みやだいず」の契約栽培面積割合の増加を目指す。

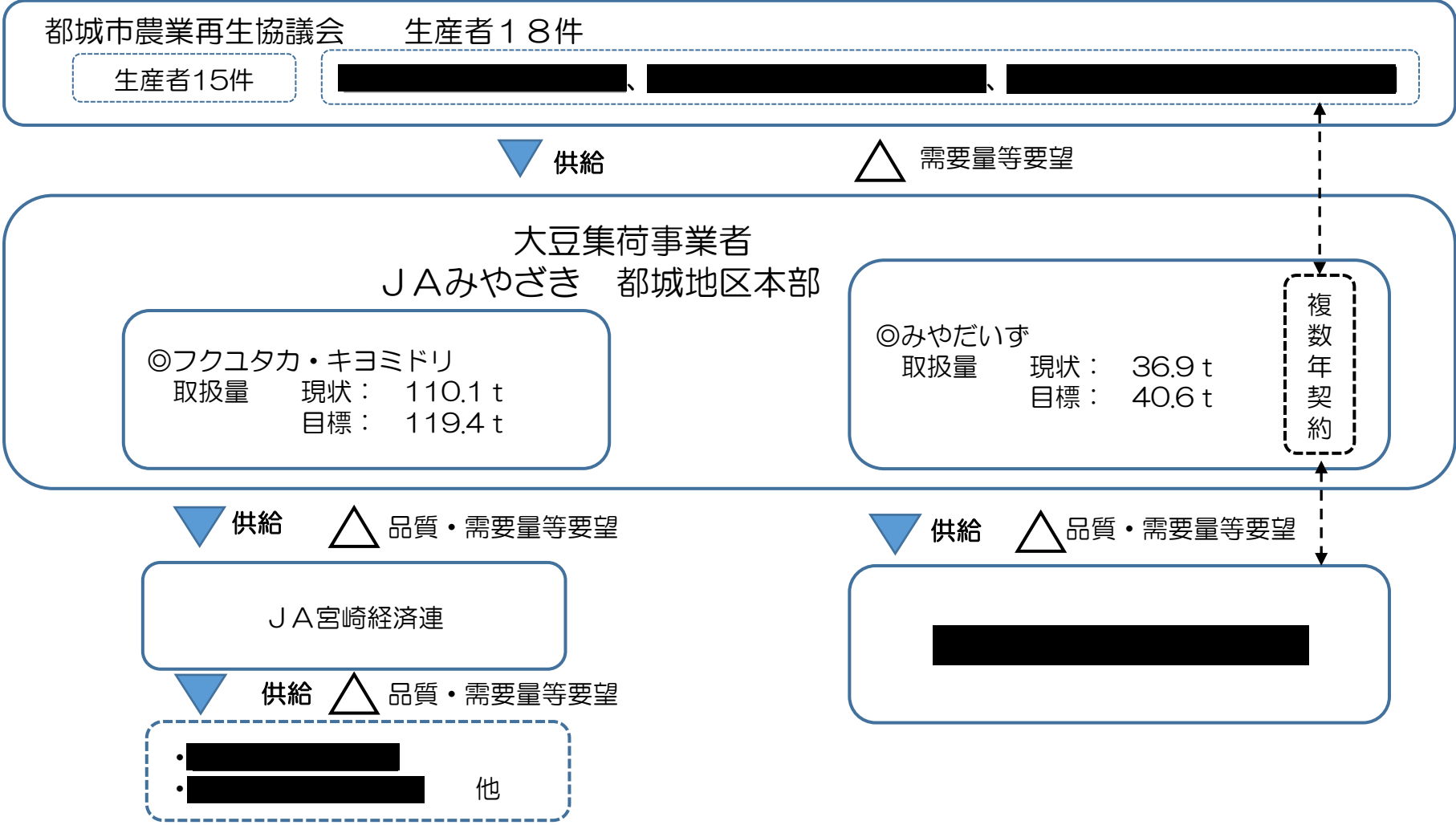
都城市		令和元	令和 2	令和 3	令和 4	令和 5
大豆	面積 (ha)	174.0	179.0	178.0	190.0	182.0
	収量 (kg/10a)	178.7	131.8	124.2	34.2	80.8

目標
183.0ha
87.4kg/10a

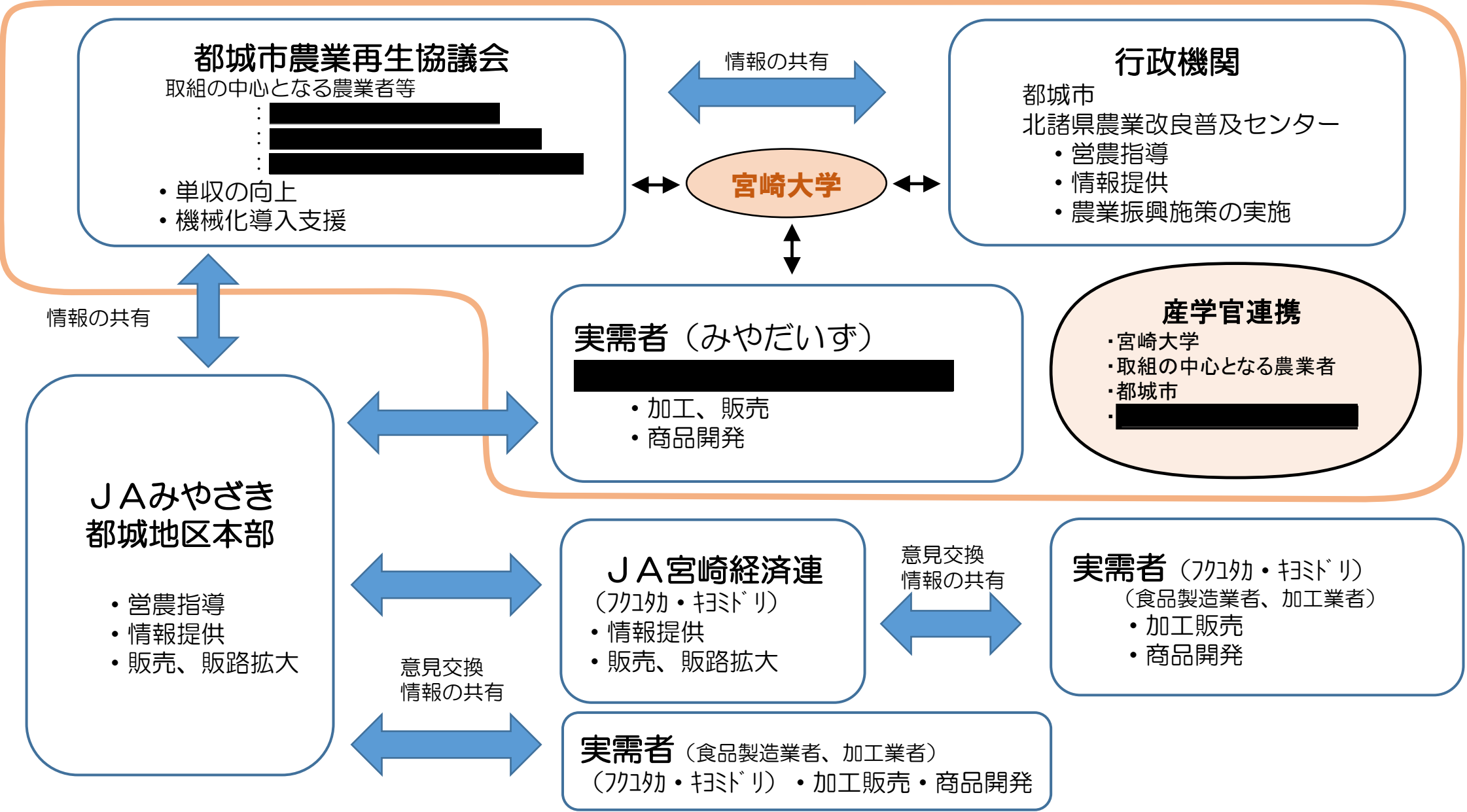
3. 産地と実需者との連携方針

集荷業者を通じ、実需者から要望される実需量を適切に把握し、生産拡大を図る

大豆



4. 大豆の国産化に向けた推進体制及び各関係者の役割



※ 産地と実需者との連携について、図等を用いて明示すること。
※ 取組の中心となる農業者等を必ず位置図けること。